

天 貴 星

この星は人生にたとえるなら幼少期です。天貴星には「自尊心」「プライド」などの意味合いの他に知識欲が旺盛であり、正直な気持ち、人を疑う事を知りません。

その実直さは、一種の潔癖さと完全主義を生み出すのです。この純粋なまでの実直さは社会生活においても、目上に対して反抗することなく、目下の人にも実直な律義さで接するため、心にもない浮き世の義理や裏側の行為を嫌い、時には幼い人、幼稚な人…などの、そしりを受けかねません。

この星の所有者は、長男・長女の役目を天から与えられているとされ、長男長女でなくても役目上の長男長女であるため後年になって親と同居したり、一家を支えたりするような、長男・長女の役目を果たすことになるのです。

(たとえば、長男長女でなくても、結婚する相手が長男長女もしくは一人っ子であるケースが実に多い。そうなると配偶者の実家で長男長女としての役目を果たさなければならなくなる)

天貴星は多分に古典的であり、伝統を重んじ歴史や古美術を重んじます。ただ時代の先端を行く流行の波には乗りにくい気質をもっています。それが時としては引っ込み思案になったりもするのです。

天貴星は人生行程の中でも、子供の頃に最も良い面をだし、両親に対して温順であり素直な性情をもち、それだけに子供の頃は親に対し一番心配をかけない子供になるのです。

常に人生の蓄積を忘れず、六十・七十の坂を越えても、内面の精神鍊磨を心掛け、人生の終局に至るまで、まだ学び取ろうとするエネルギーは実に見事といわねばならない世界でもあります。

■初年運(人体星図の肩のところに割り出された星で、この位置を算命術では「初元」の場所と言っています。)

生れてから成人に達するまでの初年運をみます。主として子供の頃に現れる性格や希望が現われますが、この星は青年になる迄のものの考え方や性格づけが發揮されるとともに、本人一生の性格として持ち続けられる星でもあるのです。三つ子の魂、百まで…のたとえで子供のころの性格は大人になっても消えるものではありません。

この位置に天貴星を持つ人は、自己本位な生き方をします。そのため初年期を過ぎた人だと、周囲の人たちには「生意気で鼻柱が強い人」という印象を与えてしまいます。

また、この星には長男・長女…か末っ子に生まれる…という暗示があり、一生を通じて親の面倒をみる宿命をもっています。
(女性で末っ子として生まれた人が肩のところに天貴星を持っていると、結婚する相手は必ず長男か末っ子ということになります。そして、嫁いでも実家との縁が強く、里の親には生涯長女の役割りを果たす運命にあります。)

●人体星図に天貴星が二つ以上出ている人は、初年運だけではなく一生を通じ、人の世話を受けてのんびり過ごすことになります。男性の場合は、霸気のなさ(物事に立ち向かおうとする意気込みに欠ける)が欠点ですが、男女ともに、持ち味は暖かい雰囲気を漂わせながらの一生です。

■中年運(人体星図の左足の位置に割り出された星で、この位置を算命術では「中元」の場所と言っています。)

青年期から壮年期にかけての運勢を算定します。人生のアイデンティティ(役目意識)はここに算出された星から生れます。また職業意識や社会観なども、この星から生まれると云っても過言ではないでしょう。

天貴星を中元(人体星図の左足の位置)に持つ人の中年運は、若さに溢れた中年期を暗示しています。しかし、精神的には筋金の入りきらない脆さが生活の中出てくることが多くなります。中年期に、仕事の面で挫折すると立ち上がり難い危険性をはらんでいます。この人の場合、仕事と家庭は表裏一体です。それだけに、仕事で失敗をした場合は、家庭に影響を及ぼしますし、家庭内でのトラブルは避けられません。親との同居、あるいは実家の経済を支える場合も暗示されています。中年期の後半には思い切った気分転換が必要になってきます。

■晩年運(人体星図の右足の位置に割り出された星です。)

晩年期の運勢を算定します。人生の究極においてどのような人間性と悟りが持てるかをこの星で量ります。算命術では、この位置を「本元」とも言いますが、それは人生を生き抜いて来た社会に対する役目や価値を見つけ出す大切な場所という意味からです。

人体星図の右足に天貴星を持つ人の晩年運は、気持ちの上では「老いてますます盛んなり…」という表現がピッタリな晩年運が暗示されています。60歳、70歳になっても理想を燃やし、肉体と精神の鍊磨を心がけますが、身体がついていかず、気ばっかり焦ってイライラすることの多い晩年です。

